

手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年12月4日(火)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

様々なことを考えさせられた発表会でした！

自分の思い・願いをしっかりと伝えることができました 第26回富田地区「少年の主張」発表会 12/1(土)

12月1日(土)には富田公民館において、第26回富田地区「少年の主張」発表会が開催されました。富田小、富田東小、そして本校から4名ずつの児童生徒が参加し、自分の思いを発表しました。

その中で、1年菅野明里さんが『優秀賞』を受賞しました。

(菅野さんの主張は裏面に掲載しました。)『優良賞』の2年遠藤愛斗君は、「幸せの真ん中に仲間がいる」というタイトルで発表しました。我が家のような温かい学級を作り、イジメがなく安心して過ごせる学級にしたいという願いを込め、愛斗君が考えた学級目標「ようこそわが家へ」の話から、サッカー一部の仲間との「キズナ」の大切さを訴えました。仲間とは「お互いに相手の幸せを願う関係」という捉えや、仲間とは、「元気になる、笑顔になれる人達が集まるチーム」と表現したところがとても印象に残りました。同じく『優良賞』の2年今野虹典君。「今を生きることと想いやり」と題し、ソフトテニス部で支え合う仲間との関係について、ゲームの臨場感あふれる描写をまじえながらの堂々とした主張でした。周りをよく見ること。周囲のあたたかさに埋もれてばかりは駄目。困っている人、悲しんでいる人がいたら、手をさしのべたい。「大丈夫だよ」とか「ドンマイ」といった声かけをしたい、と自分の想いを述べました。最後に、『優良賞』の3年澤野蓮也君。「美しい街を目指して」というタイトルで、サッカーのロシアW杯での日本人サポーターのゴミ拾いという素晴らしい行動から始まり、それなのになぜ街にはゴミが落ちているのか、という問題提起がありました。多くのゴミの共通点は、人によって捨てられたという点であること、そして、ポイ捨ての原因、その原因に対応したポイ捨てをなくすための具体的な対策が述べられました。「身の回りの環境を綺麗にすることで、心の中まで綺麗にすることができる」という言葉が印象的でした。

小学生8名の発表も素晴らしく、原稿を読むのではなく、相手に伝える、主張するという意識の強い発表が数多くありました。内容もよく考えられたすばらしいものが多く、甲乙つけがたい審査員泣かせの発表会でした。様々なことを考えさせられた、とても有意義な時間となりました。



遠藤愛斗君



今野虹典君



澤野蓮也君



17文字に想いを込めて… あいさつ運動標語コンクール表彰式

12月1日(土)、少年の主張発表会の後、今年度のあいさつ運動標語コンクール表彰式が行われました。本校からは4名の生徒が出席し、地域サポートチームの代表幹事である本校の星PTA会長から表彰を受けました。

17文字に込められた思いや願い、いずれも心に響くすばらしい作品です。これらが、日常の本物のあいさつに繋がっていくことを期待しています。

優秀賞

「あいさつが 見守る町で 君育つ」 3年齋藤 明さん

入賞

「簡単な その一言が あたたかい」 1年大河原千尋さん

「あいさつは 今日一日の 出発点」 2年齊藤巴奈さん

「おはようと 君に言われて 胸はずむ」 2年菊地美愛さん

「あいさつは 人との関係 結ぶ糸」 3年平栗日菜乃さん

「挨拶は 君との心に 橋架ける」 3年吉田浩太郎君



明るい未来を信じて

1年 菅野 明里

十年後、私がなりたいと思っている職業はあるのだろうかと考える時があります。学校の授業で、自分の適性をパソコンで調べたことがありました。私に合った職業は、化学分析員と出てきました。化学分析員は、製品の安全性のチェックなどを分析機器を用いて行います。女性に向いている仕事で、将来の夢の一つに加えたいと思いました。しかし、十年後の社会では、化学分析の仕事は、AIに奪われているかもしれません。現在でも、受付の仕事などをペッパー君がやっています。大手銀行は人員の削減を発表しました。人間では、時間のかかる計算もAIなら一瞬で出来てしまいます。人間である自分にしか出来ない仕事を見つけなければと思いました。

先日、足首に痛みがあり、整形外科病院に行きました。ロビーには、ペッパー君がいました。円い目をキラキラさせて、こちらの方を見えています。母と近づくと、ペッパー君が「なんか雰囲気変わった？」と話しかけてきました。母は、いつもと違う眼鏡をかけていたのを気づいてくれたのかと思い、嬉しそうでした。十年後に、ペッパー君は、我が家の家族になっているかもしれません。母の様子を見ていた私は、ロボットに仕事が奪われるという考えがなくなりました。よく考えてみれば、私は機械のおかげで、毎日楽しく、豊かな生活を送ることが出来ています。一人っ子の私にとってパソコンは、何でも教えてくれる優秀なお兄さんのような存在なのです。

十年後の社会は、人とAIが共に進化する社会であると思います。AIは、人間が教えなければ進化することは出来ません。生物学には、共進化という概念があります。受粉のための花と昆虫の関係のように、人とAIは共に進化できるはずで、AIが、忙しい部分の仕事を引き受けてくれれば、人間には余裕が生まれます。人間は、クリエイティブなことに沢山の時間を使うことが出来るようになるはずで、人間関係に時間を使うことができ、家族や友達と過ごす時間が増えていくかもしれません。ロボットに仕事を奪われると心配するのではなく、人間とロボットが共に進化する社会を目指していくことが大切なのだと考えています。では、人間に必要とされる創造力は、どうやって身に付けばいいのでしょうか。

今、自分がすべきことは、何であるかを考えて行動していこうと思いました。学校やみんなの為に出来ることをしたいと思い、生徒会書記に立候補することを考えました。しかし、部活動との両立はとても難しいことだと感じていました。そんな時、副会長の先輩が、「私が応援するよ。」と声を掛けてくださいました。自分一人で、何も出来るわけがありません。先輩に学びながら頑張ってみようと思えました。人間は、協力し合うことが出来たから、ここまでの進化を遂げたのです。

十年後、AI時代が進むことは間違いないと思います。人と機械がコラボレーションする時代です。しかし、人間どうしの関わりがなくなるわけではなく、人と人とのつながりが今以上に大切になってくると思うのです。これから私は、沢山の人と関わりながら、助け合い、明るい未来をつくる一人として、成長していきたいと思っています。自分のすべき事を一つ一つ丁寧に頑張っていき、みんなも自分も幸せになれる仕事を見つけたいと思っています。生命の誕生、地震の予知など、学びたいこと、知りたいことが沢山あります。物作りにも興味があります。大きな夢と希望を持って、毎日自己ベストで進んでいきたいと思っています。



イギリスのオックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授は、AI（人工知能）の登場で近い将来、世の中の49%の仕事はなくなると予測しています。今後必ずやってくるAI時代。そして、人間社会の大きな課題となるであろうAIやロボットとの共存について、菅野さんは、自分の生活や将来就きたい職業などからめながら、落ち着いた口調で自分の思いや願いを堂々と発表することができました。その着眼点のすばらしさ、そして、何よりも自分自身と真剣に向き合った主張は特筆すべきものでした。この気持ちを持ち続けていけば、きっと菅野さんは、自分の適性にあったやりがいのある職業に就くことができるだろうと感じました。

登下校のマナー・交通ルールについて、よく考えて行動しよう！

最近、本校生徒の登下校のマナーや自転車の運転等について、地域の方や関係機関の方から指摘を受けるケースが多くなっています。再三指導してきたことですが、一部の人達にマナーの悪い人や交通ルールを守れない人がいるということは、とても残念なことです。12月3日（月）の昼休みには、自転車通学を許可されている生徒を全員集め、再度具体的な注意点を話しました。ちょっとした気の緩みが事故につながります。「このくらいならいいや」



「誰も見ていないからいいや」…そういった気持ちを捨て去ることです。「自分には関係ない」ではなく、一人一人が自分事として見直し、改善してほしいと強く願います。そして、それらの行動すべてが「命を大切にすることであるということも忘れないでほしいと思います。